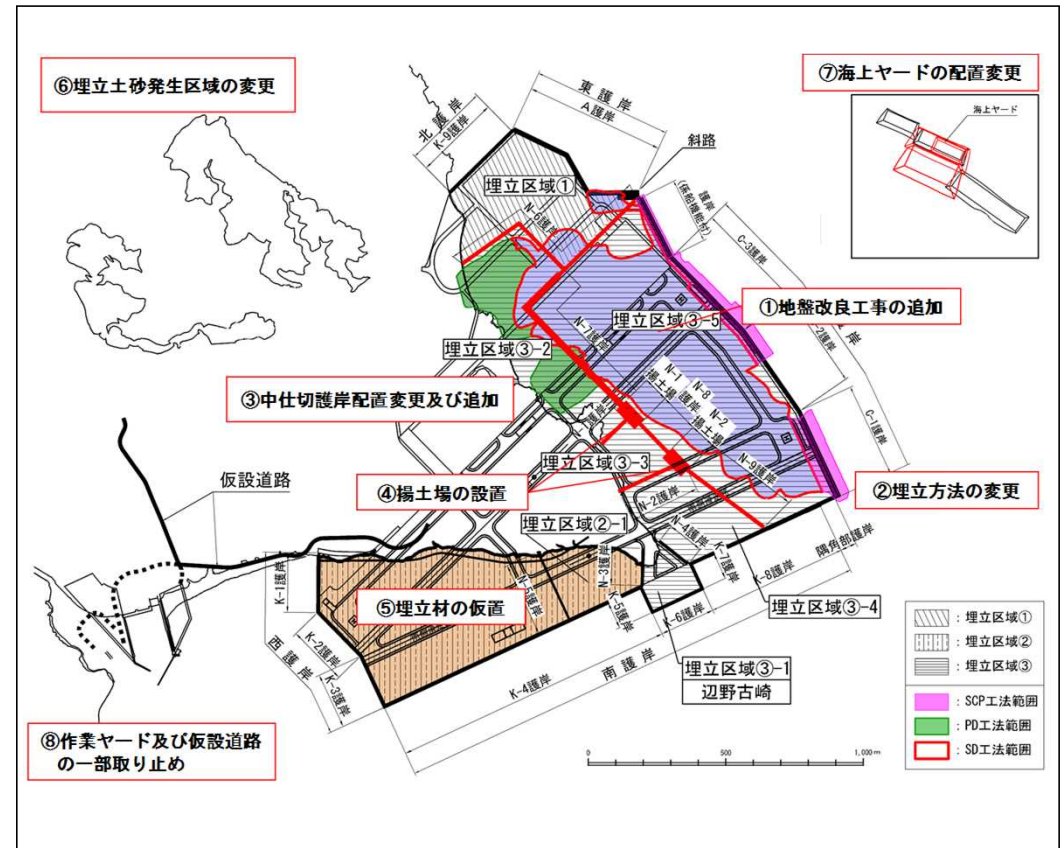


## 計画変更の概要

# 主な計画変更の概要

項目	計画概要
①地盤改良工事の追加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大浦湾側（海上施工）において、地盤改良工事（サンドコンパクションパイル(SCP)工法及びサンドドレーン(SD)工法)を追加。</li> <li>・大浦湾側（陸上施工）において、地盤改良工事（ペーパードレーン(PD)工法)を追加。</li> </ul>
●工期短縮の検討に伴い計画変更を要する項目	
②埋立方法の変更	<p>【トレミー船による埋立ての追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地盤改良完了後、外周護岸閉合前に海上からトレミー船による先行埋立を実施。</li> </ul>
③中仕切護岸配置変更及び追加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大浦湾側の水深が浅い陸側において、外周護岸閉合前に先行して陸上から埋立工事を行うため、中仕切護岸の配置を変更及び追加。</li> </ul>
④揚土場の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋立区域②及び②-1の埋立の早期完了、埋立区域③-3、③-4の早期埋立を行うため、揚土場を設置。</li> </ul>
⑤埋立柱の仮置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋立区域③-5の護岸併合後の埋立柱投入量の増加を目的とした埋立柱の仮置きを実施。</li> </ul>
●その他	
⑥埋立土砂発生区域の変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋立区域の一部において既存ダム周辺切土により陸上から埋立を行う計画としており、埋立に必要な土量に合わせ改変範囲を変更。</li> </ul>
⑦海上ヤードの配置変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーソン仮置きに必要な面積を確保した上で、1箇所に集約。</li> </ul>
⑧作業ヤード及び仮設道路の一部取り止め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地内において所要の作業ヤードが確保出来ることから、辺野古地先水面作業ヤードを取り止め。</li> <li>・当該作業ヤードの取り止めに伴い、工事用仮設道路C及びAの一部を取り止め。</li> </ul>

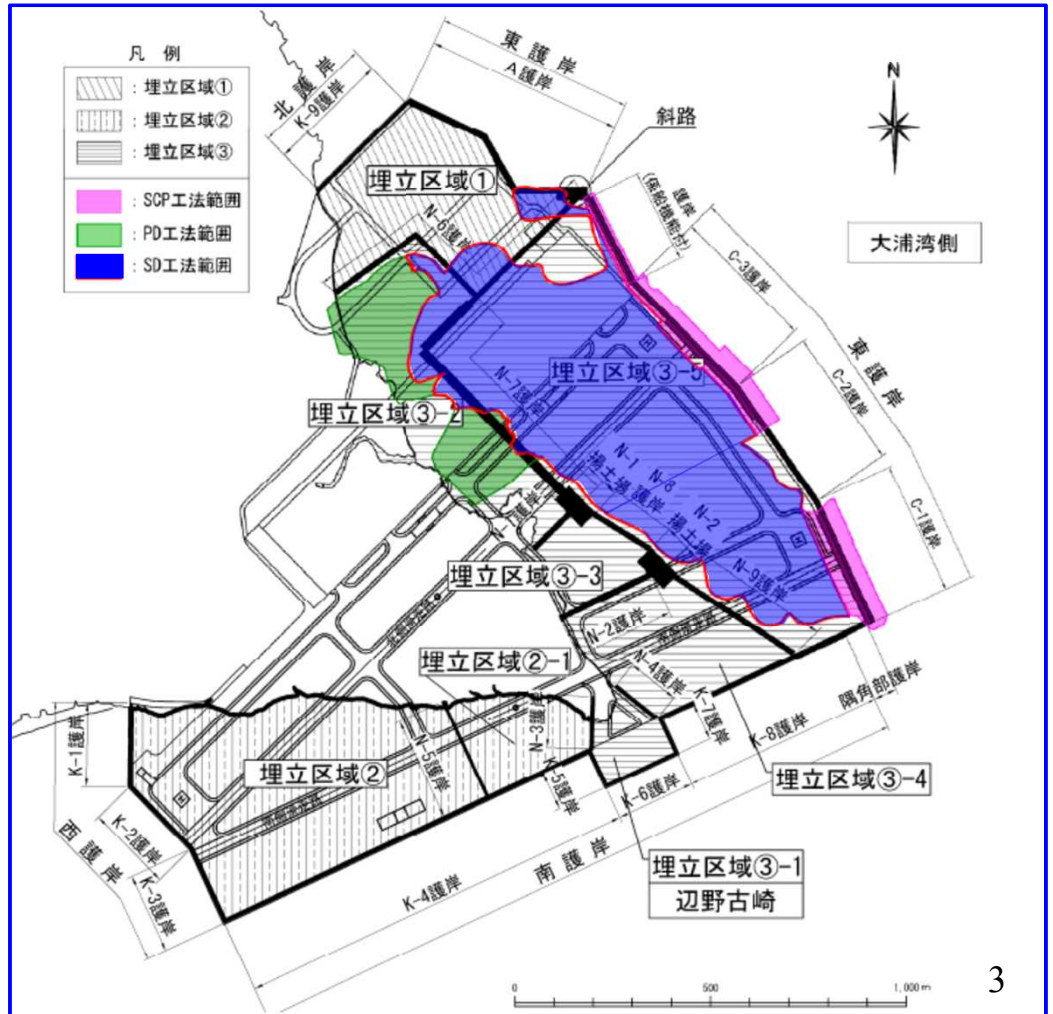
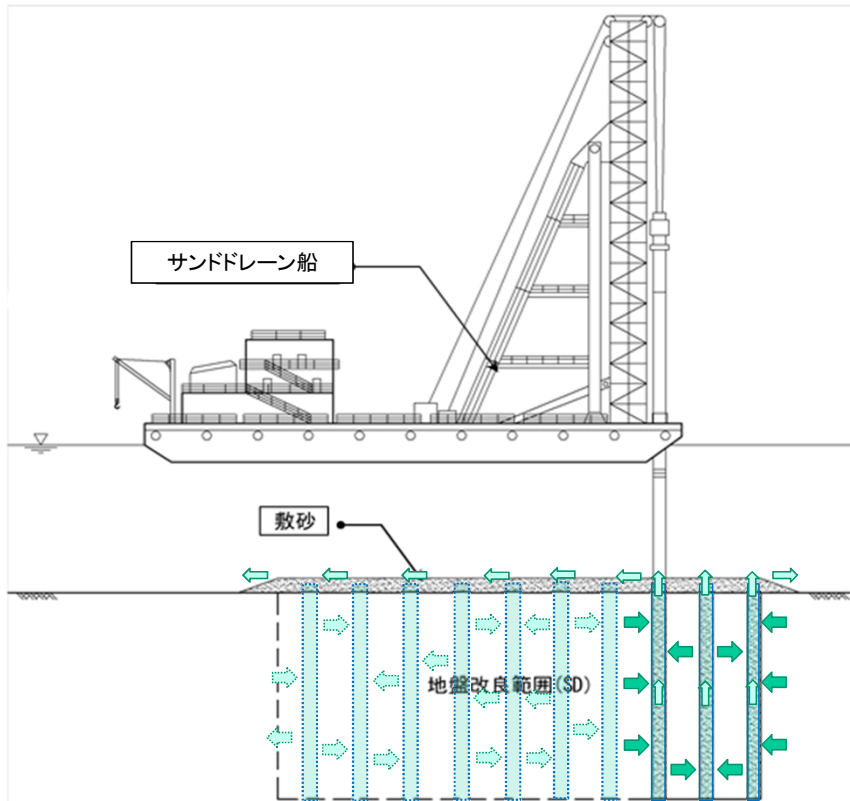




## サンドドレーン(SD)工法による施工(海上施工)

- 大浦湾側の埋立地については、一般的で施工実績が豊富なサンドドレーン(SD)工法により地盤改良を行う。
- 地盤改良船の喫水制限を受ける範囲でかつ改良深度が陸上地盤改良機で施工が出来ない範囲については、喫水確保のための浚渫を行い、地盤改良船により海上施工を行う。

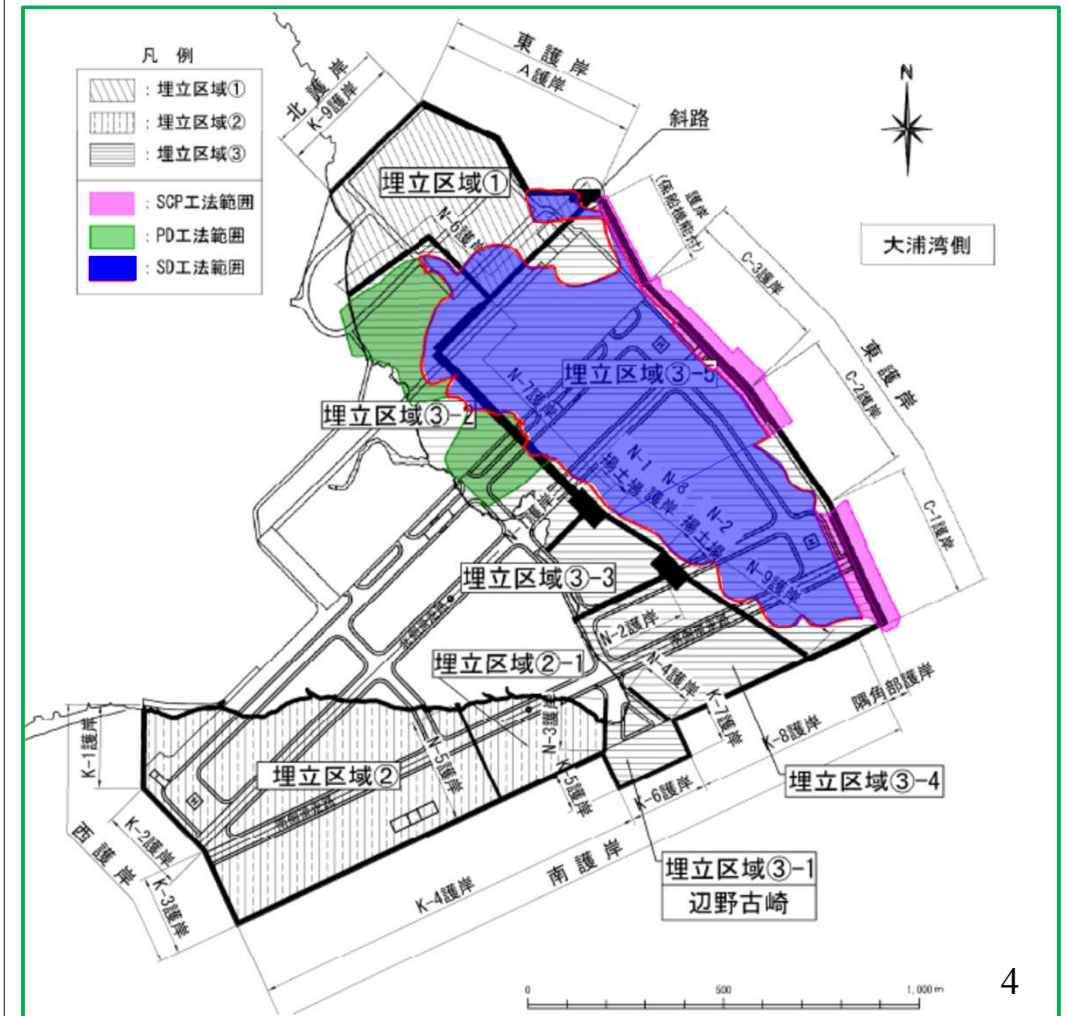
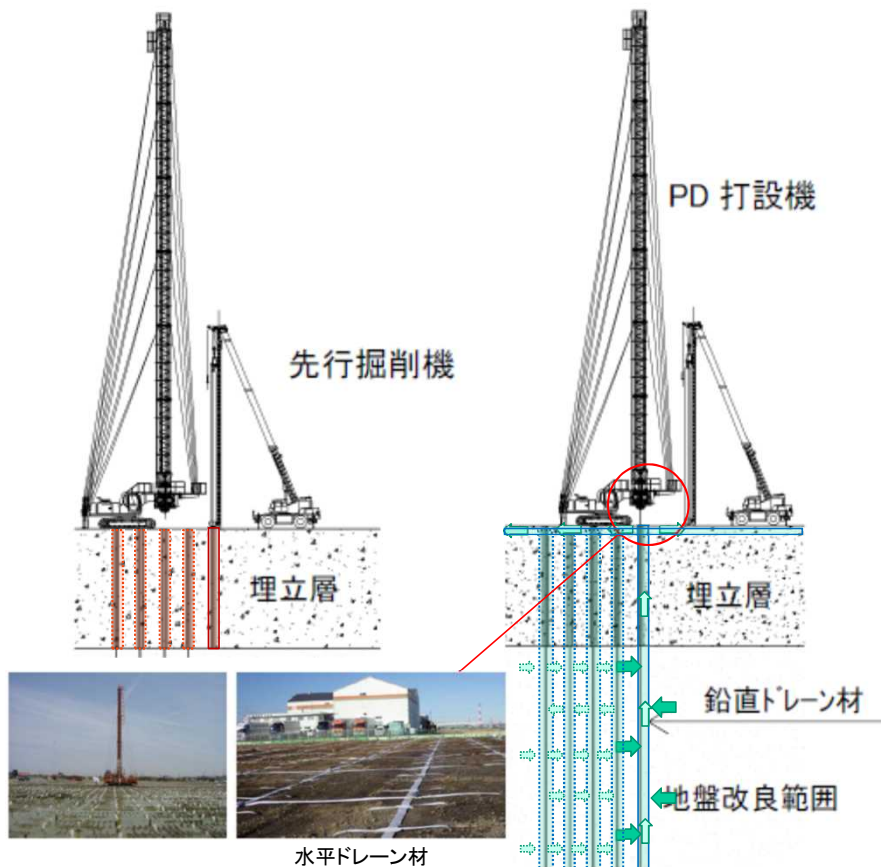
- SD工法の施工に先立ち、現地盤の圧密に伴う排水を円滑にするとともに、施工時の汚濁防止の役割も果たす敷砂を行う。なお、敷砂投入は、汚濁拡散低減効果のあるトレミー船により施工する。
- SD工法の施工については、まずケーシングを所定の深度まで貫入させた後、改良材である砂を排出する。
- SD工法の施工については、ケーシングを所定の深度に貫入させた後、ケーシングを引き抜きながら、先端より砂を排出し、砂杭を造成する。
- これにより、改良材である砂から水が排出され、圧密の促進が図られる。



## ペーパードレーン(PD)工法による施工(陸上施工)

- 大浦湾側の埋立地において、地盤改良船の喫水制限を受ける範囲でかつ改良深度が陸上地盤改良機で施工可能な範囲については、喫水確保の浚渫を行わず陸上施工を行う。
- 陸上施工については、一般的で施工実績が豊富であり、海砂の使用を抑制出来るペーパードレーン(PD)工法により地盤改良を行う。

- PD工法の施工については、所定の地盤高さまで埋立てを行った後、ラフタークレーン及びオーガモーターにより、埋立層を掘削する。
- 水の通り道となる鉛直ドレーン材を打設し、その後水平ドレーン材を設置する。
- これにより、PD材から水が排出され、圧密の促進が図られる。

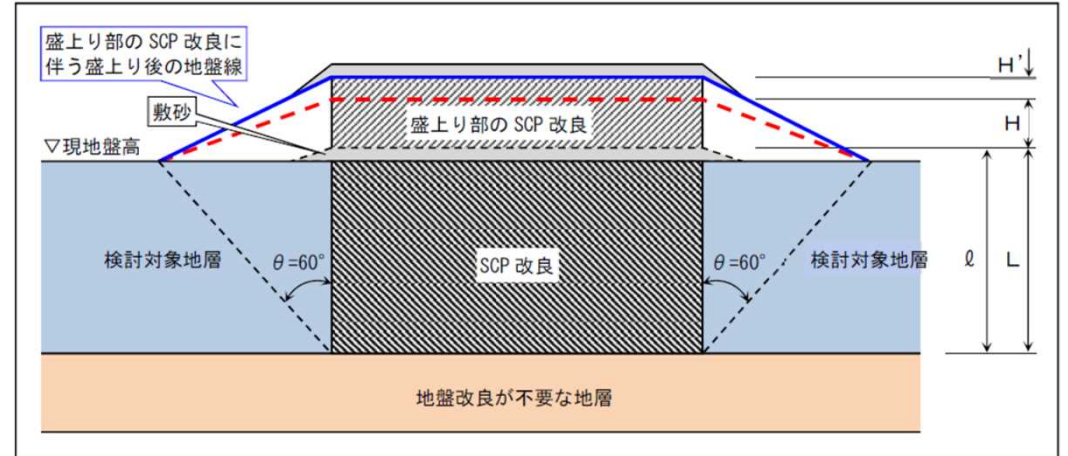


●地盤改良工事(SCP工法)に伴う地盤の盛上りについて

SCPにより地盤改良を行うと、現地盤面が盛り上がる現象が生じるが、盛上土は撤去せずに、盛り上がった地盤上に基礎マウンドを構築し、ケーソンを設置することとした。(ただし、施工上撤去が必要な箇所においては、グラブ浚渫船により、必要最小限の浚渫を行う。)

ケーソン式護岸直下の盛上り部の地盤についても、現地盤と同等のSCP工法により改良することとした。

▼地盤改良工事(SCP工法)に伴う地盤の盛上り例

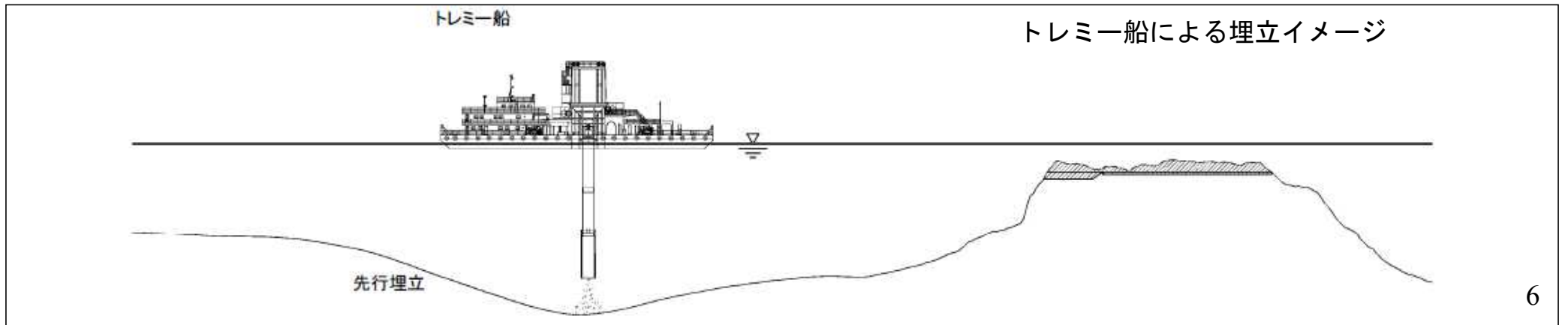
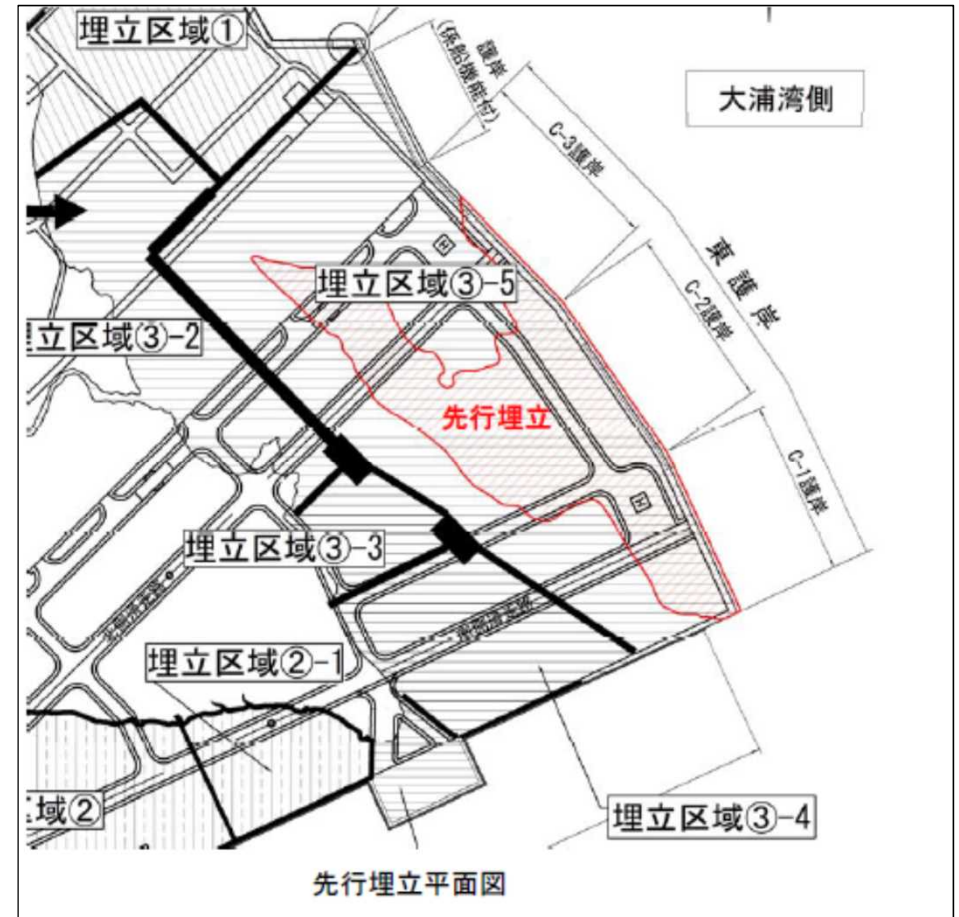


## ②埋立方法の変更

### トレミー船による埋立ての追加

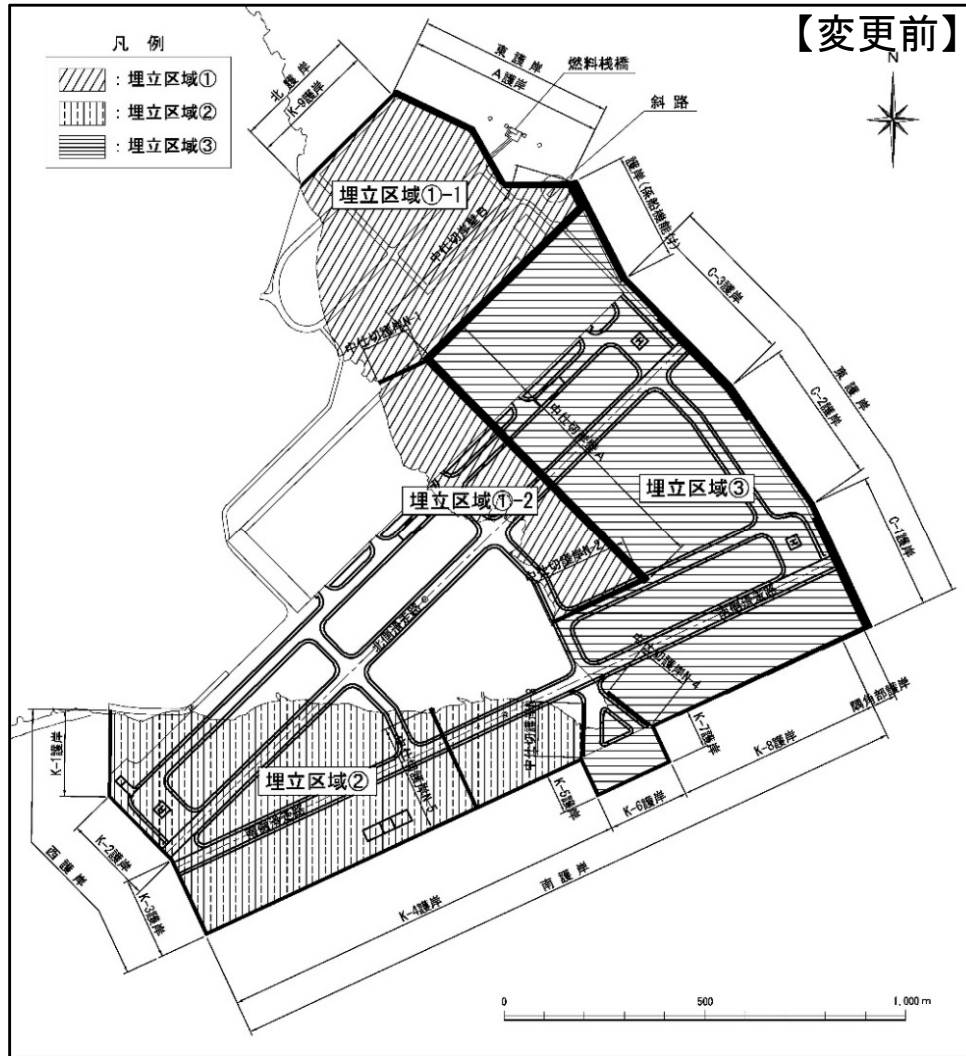
- 工期短縮等の観点から、水深が深い谷部の埋立を外周護岸閉合前からトレミー船により実施。

※トレミー船:トレミーと呼ばれる管を水中に降ろし砂や土を海底近くに直接投入することができる



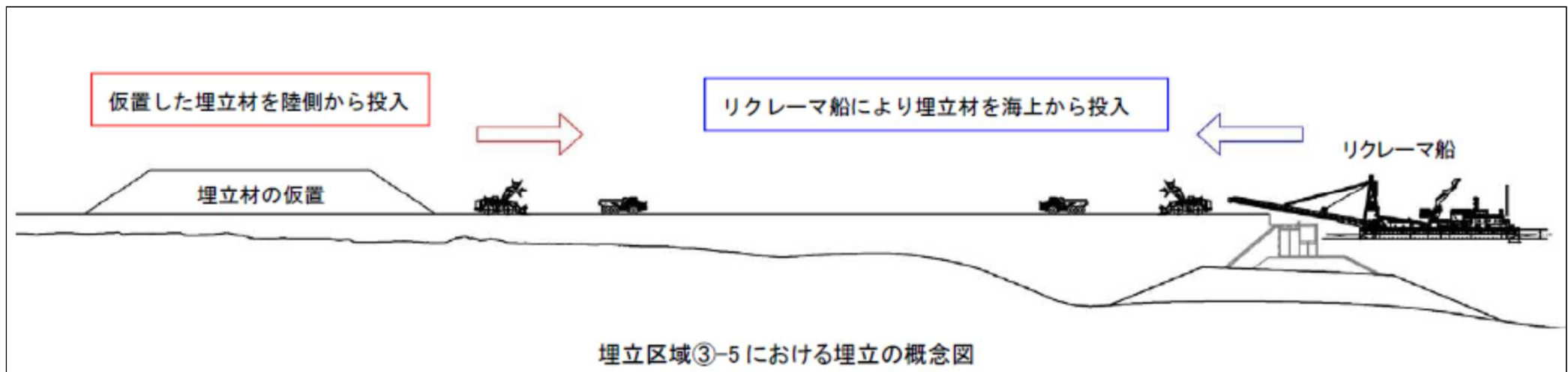
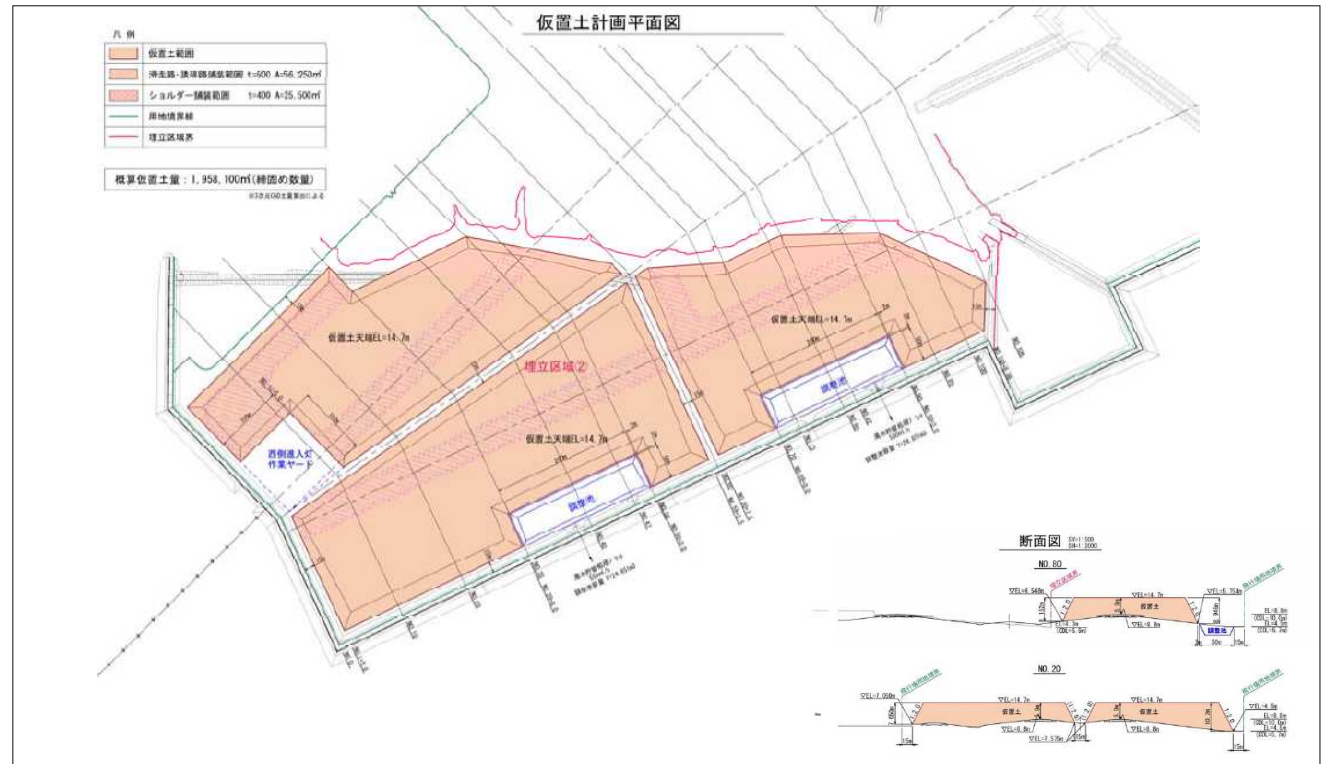
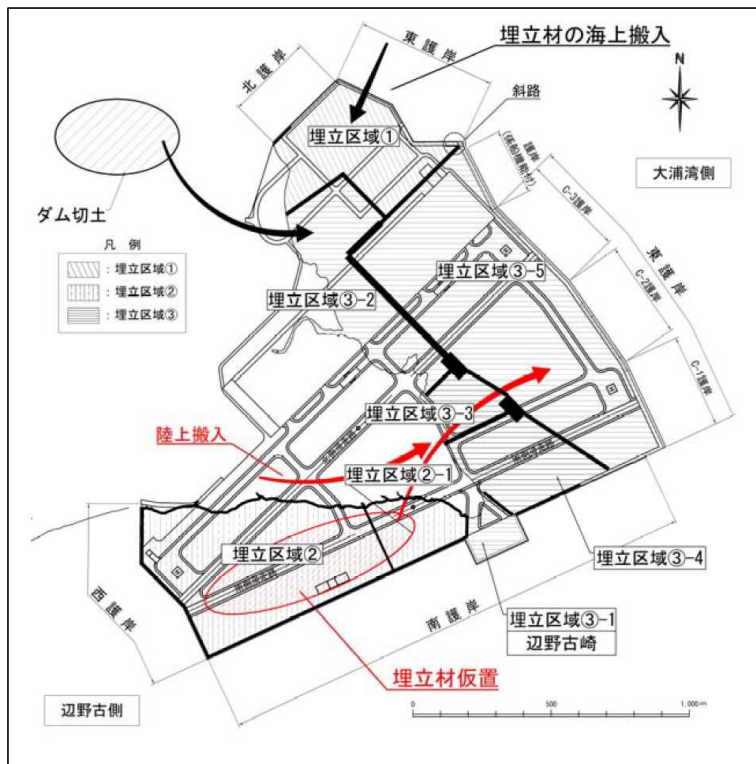
### ③中仕切護岸配置変更及び追加 ④揚土場の設置

○ 工期短縮の観点から、外周護岸閉合前に先行して陸上から埋立工事を行うため、中仕切護岸の配置を変更及び追加すると共に、埋立区域②、②-1の埋立の早期完了かつ埋立区域③-3、③-4の早期埋立を行うため、揚土場を設置。



## ⑤埋立材の仮置き

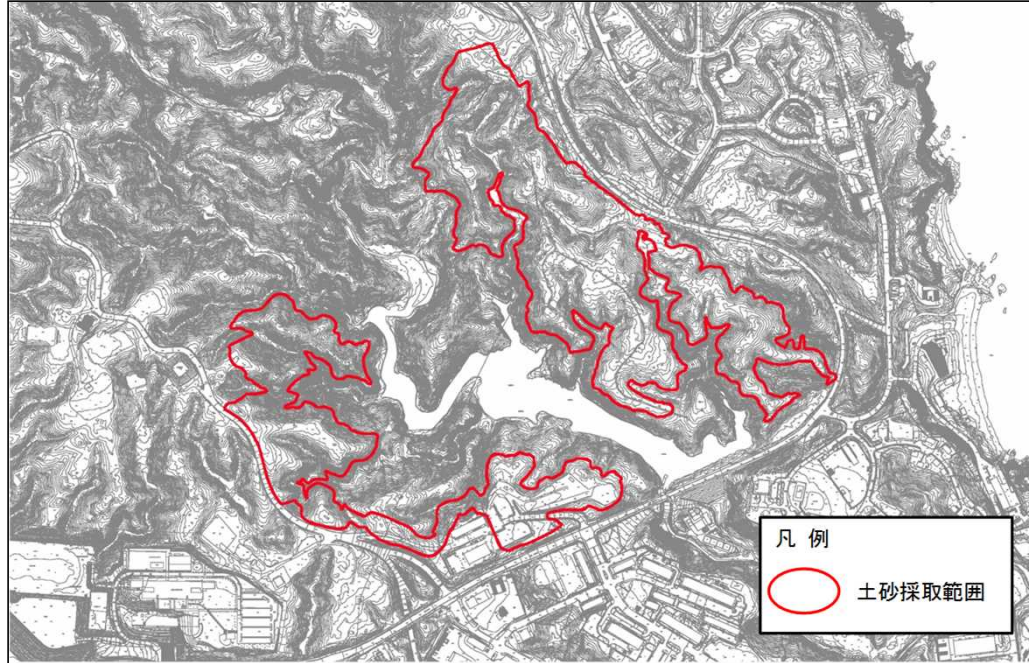
○ 工期短縮の観点から、埋立区域③-5の護岸閉合後の埋立材投入量の増加を目的とした埋立材の仮置きを実施。



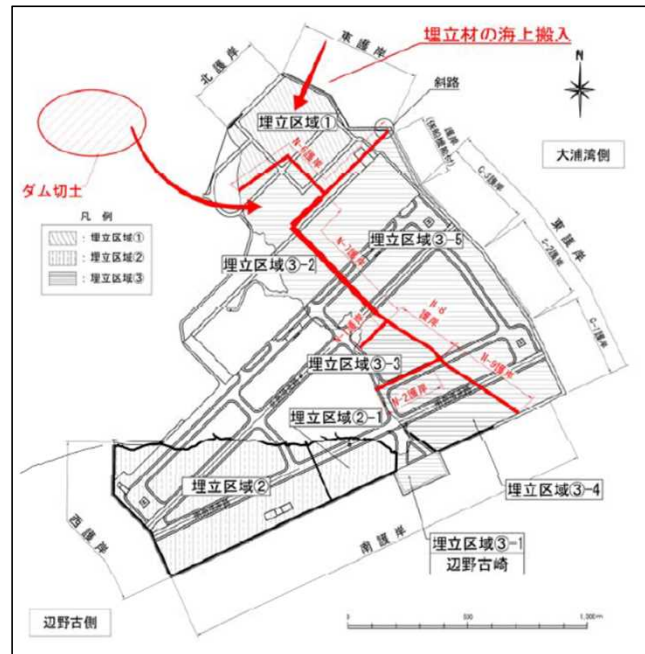
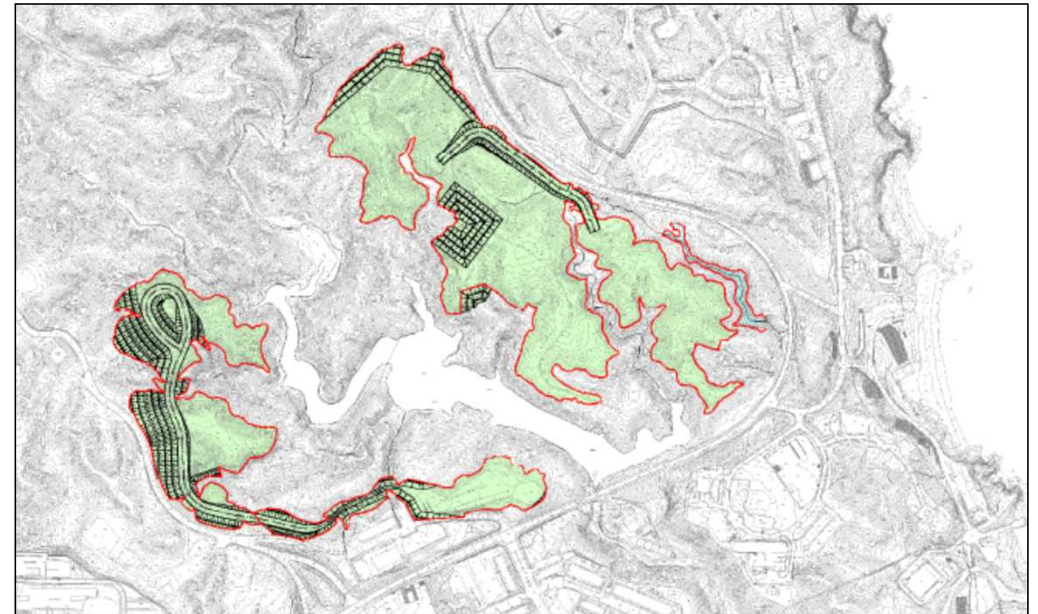
## ⑥埋立土砂発生区域の変更

○ 埋立区域の一部において既存ダム周辺切土により陸上から埋立を行う計画としており、埋立に必要な土量に合わせ改変範囲を変更。

【埋立土砂発生区域(変更前)】



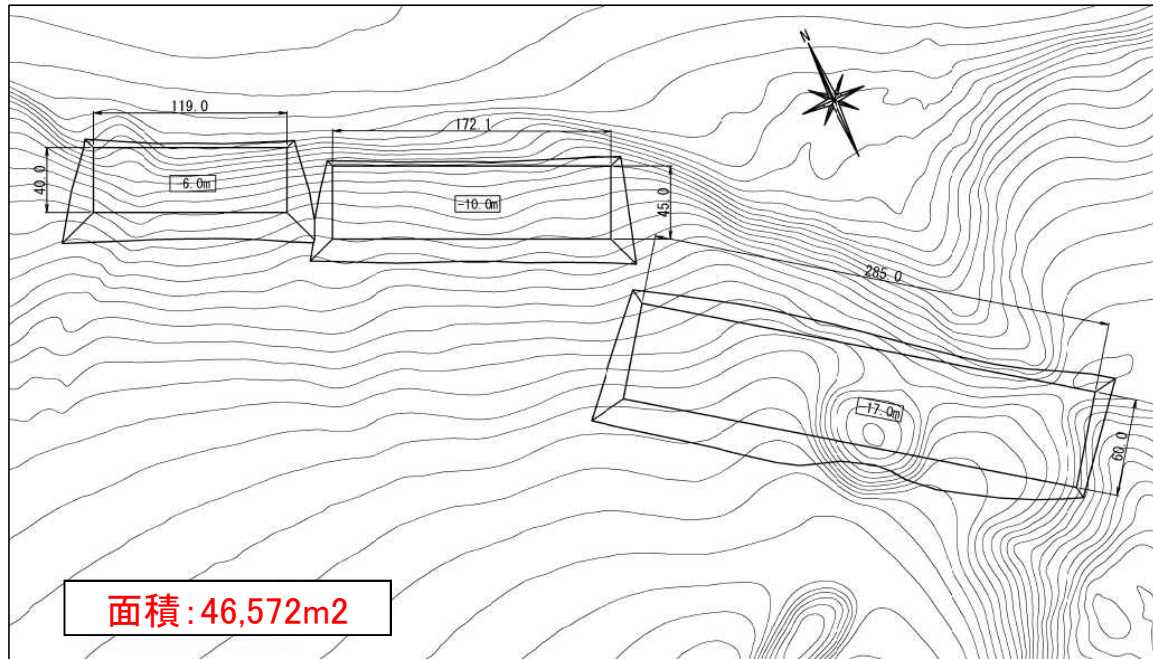
【埋立土砂発生区域(変更後)】



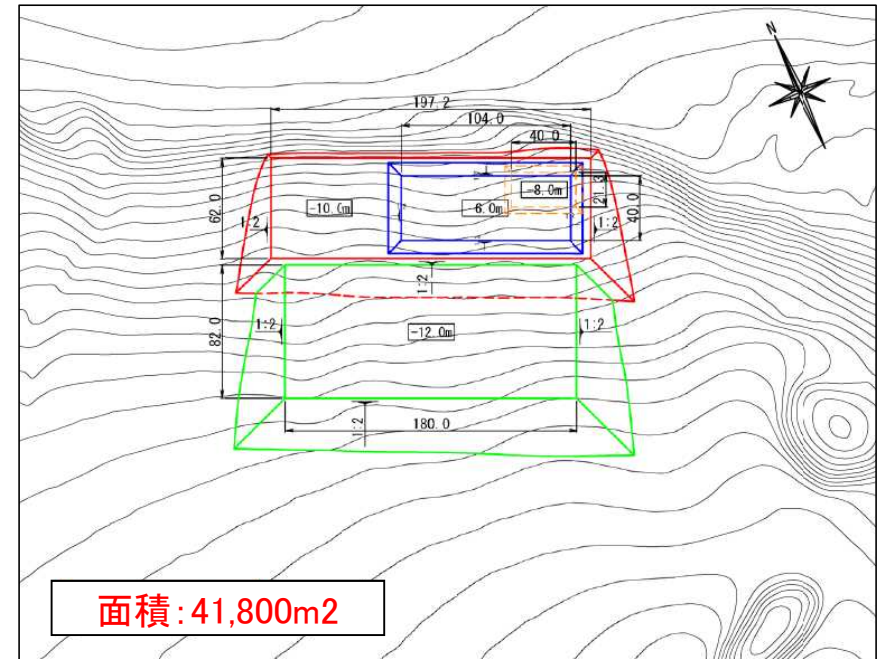
## ⑦海上ヤードの配置変更

- 海上ヤードはケーソン仮置きに必要なマウンド面積を確保し、3か所から1か所に集約すると共に、当初計画の改変面積を超えない範囲で計画。

【ケーソン仮置きマウンド(変更前)】

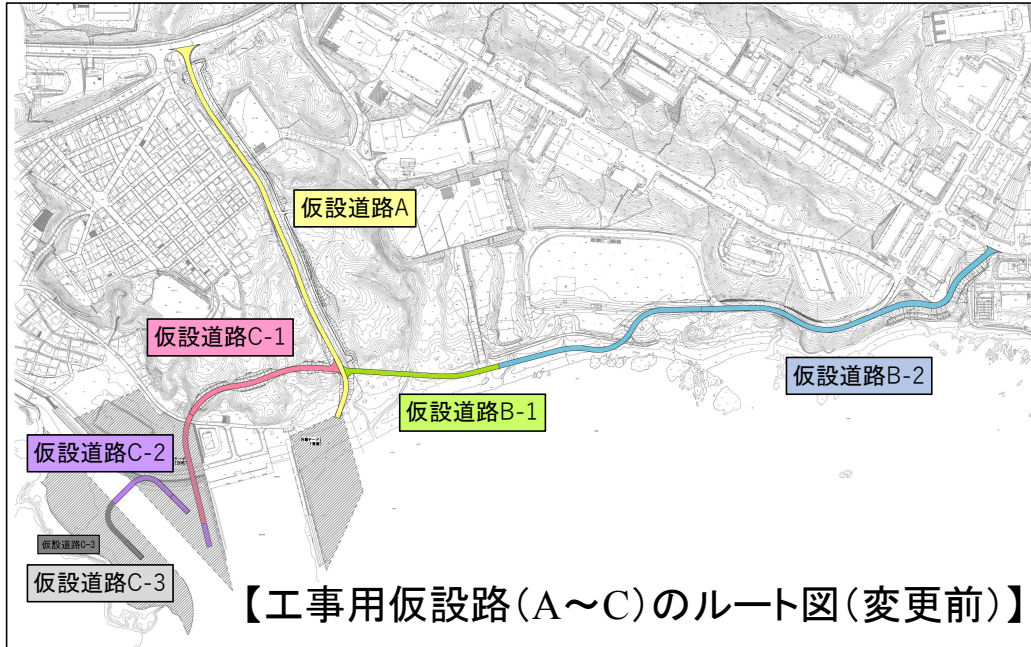


【ケーソン仮置きマウンド(変更後)】

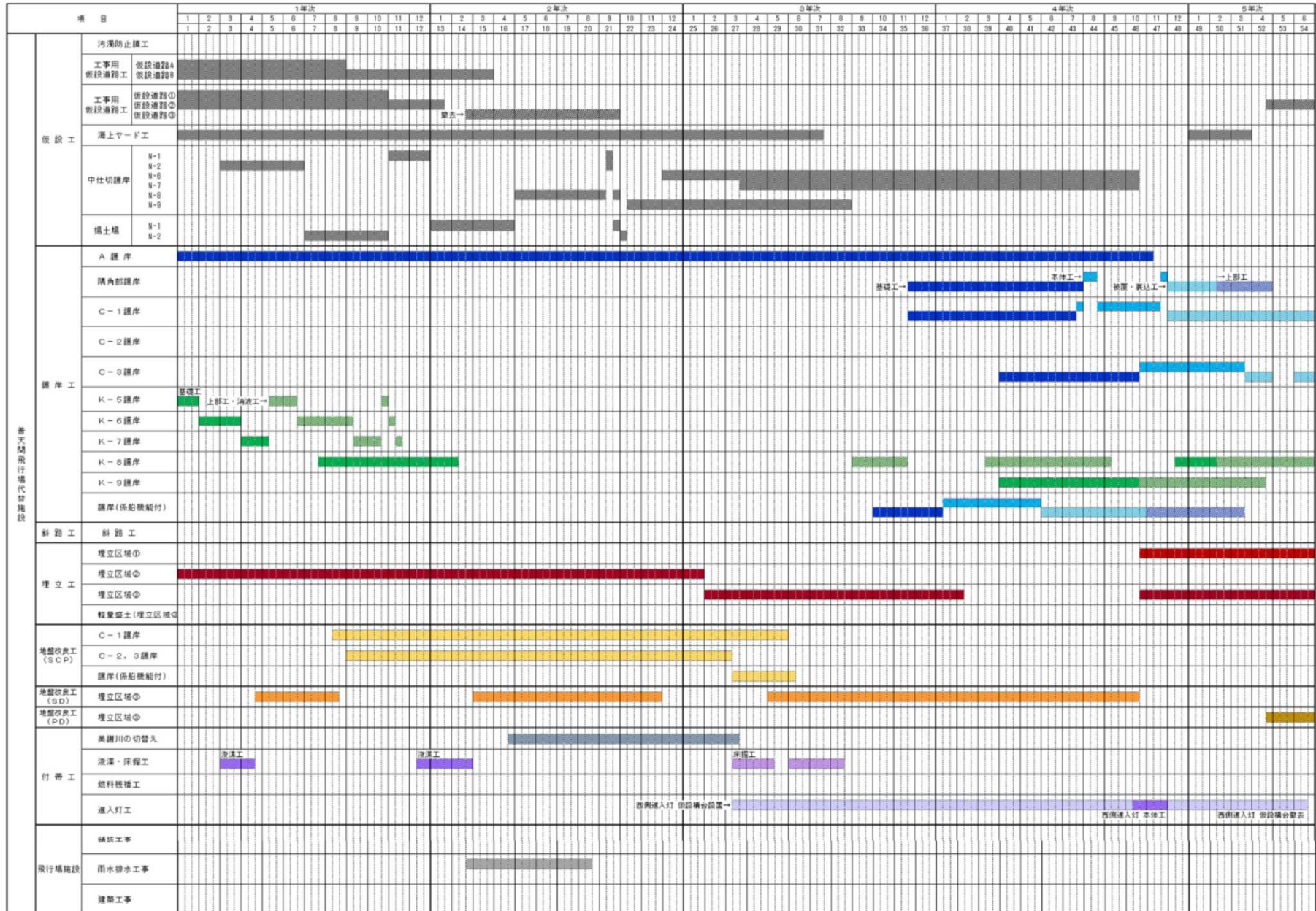


## ⑧作業ヤード及び仮設道路の一部取り止め

- 敷地内において所要の作業ヤードを確保出来ることから、当初計画していた辺野古地先水面ヤードを取り止めると共に、仮設道路C及び仮設道路Aの一部も取り止める。



■ 全体工程



次頁へ続く



前頁より続く

